

令和2年度 学校評価報告書【国立市国立第三中学校】

学校教育目標	◎ 自ら考え正しい判断のできる人 ○ 強い意志をもって実行できる人 ◎ 思いやりの心をもって助け合う人 ○ 心身を鍛える人	重点目標	「自ら考え正しい判断のできる人」、「思いやりの心をもって助け合う人」
--------	--	------	------------------------------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校評議員評価
					中間評価	最終評価			
自ら考え正しい判断のできる人	深く考える生徒の育成	主体的に学び、深く考える機会を意図的・計画的に設定し実施していく。	・「主体的・対話的で深い学び」による授業の構築 ・考えを深めるための課題設定と発問の工夫	・生徒による授業アンケートの数値向上（年度当初と年度末） ・毎時間、「本時のねらい」を明示、授業の最後に「本時のふり返し」を確実に実施する。 ・生徒が考えを深めることができる課題設定と発問の工夫を行っているか。	A	A	・生徒による授業アンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答が多い。 ・全ての教科で「本時のねらい」を明示し、授業の最後に「本時の振り返り」を行う授業スタイルが定着した。 ・次年度から新学習指導要領が実施されることを踏まえ、引き続き、生徒が考えを深めることができる課題設定や発問の工夫するなど、授業改善に努めている。 ・年間指導計画に沿って、授業の中で他教科の内容に関連させ、教科横断を意識した授業展開を行っている。 ・SDGsの学習を生かし、物事を持続可能な視点から考える指導を行っている。そのために、どのような考え方が持続可能につながっているか、SDGsの目標を年間指導計画に記載した。	・生徒アンケート内の「本時のねらい」「その日の授業のまとめはわかりやすく、もっと知りたいと思う」という質問項目の「よくあてはまる」という回答だけで80%を超えるように、「わかりやすいねらい提示」「課題設定・発問の工夫」と「ふり返し・まとめ」の更なる改善に取り組む。 ・SDGs学習の充実に向けて、「SDGs三中（学習）プログラム」をより指導しやすいものにするよう適宜更新する。1年生でSDGsについて学び、中学校3年間をとおして持続可能な取組について考え、実践できるように引き続き指導する。	・限られた対面授業の中ではありましたが、学習意欲の低下が少なく、課題設定も先生方が丁寧に取り組んでいることがわかりました。 ・授業での話し合い活動がなかなかできなかったようでした。しかし生徒一人一人が自分の意見を持ち、それぞれの考える力を伸ばすという時間がいつも以上に確保できたようです。 ・独自のプログラムを作成し、継続的に実践していることは評価できます。SDGsも子供たちに浸透してきたとのこと。メディアでもSDGsを取り上げることが多くなっているため今後期待します。
			・各教科で身に付けた力を生かす問題解決的な学習活動 ・持続可能な社会の創り手となる生徒の育成を目指すため、SDGsの校内研修会を実施	・教科等横断的な取組 ・SDGsの学習を通し、持続可能な社会づくりに向けて考えることができたか。	A	A			
		個に応じた指導を充実させ、知識・技能の習得を図る。	・習熟度別授業（数学） ・少人数授業（英語） ・補充教室、質問教室の実施 ・スマイルスタッフ、特別支援教室「かがやき」との連携	・効果的な習熟度別授業、少人数授業の実施 ・補充・質問教室の実施、生徒の参加促進 ・SS、特別支援教室専門員、特別支援教室巡回指導教員との連携による個別指導の充実	A	A	・生徒による授業評価、少人数指導アンケート等、客観的な資料に基づく分析を定期的に行い、より適切な少人数編成等に生かす。また、教科部会を定期的に行い、少人数授業での生徒の実態を情報交換したり、ワークシートの共有化を図ったりする。 ・開設2年目となる特別支援教室「かがやき」は、工夫を重ねながら指導を進めている。これまでの反省を踏まえ、より効果的な指導ができるように成果と課題をまとめる。	・今年度は通常の取組が厳しい中、できることをしっかり行う体制が取れたのはよかったです。 ・少人数編成にすることで質問しやすくなり、何をしたいかわからない生徒に、声をかけ課題を提示して取り組ませたりしている話を聞きました。	
思いやりの心をもって助け合う人	自己実現に努める生徒を支える生徒	いじめ・不登校傾向の早期発見と早期対応	・校内いじめ防止対策委員会を毎月開催する等、いじめ未然防止と迅速な対応 ・生徒によるいじめ防止活動（スクール・パディの活動） ・子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーとの連携	・新たな不登校生徒を出さない。 ・いじめ・からかいアンケートや日常の生徒の言動から、いじめ認知をすることができたか。 ・深刻ないじめがなくなったか。	A	A	・令和2年11月30日現在、学校生活において認知されたいじめの件数は25件（昨年は37件）。 ・不登校生徒は26名（昨年は17名）。家庭訪問を行ったり、SSW・SC・子供と家庭の支援員・子ども家庭支援センター・児童相談所、教育支援室と連携したりしながら対応している。 ・深刻ないじめはないが、からかいや人の嫌がる言動は依然として見られる。	・早期対応、早期発見のために、軽微な案件を見逃さず、認知件数をあげる。 ・毎月1回開催する校内いじめ対策委員会を柱として、情報共有と共通理解、対策・検討をより綿密に行う。あわせて、各種情報が担任留まりにならない環境づくりに努める。 ・不登校生徒の対応は担任・学年だけでなく、外部機関と連携・協力・分担しながら行う。 ・生徒主体によるいじめ防止活動（スクール・パディ）のさらなる充実。	・月1回の対策委員会を確実に実施していることを評価したいですが、不登校生徒の増加が気になります。 ・スマホ等の所持率が増加する中、学校の指導は十分に行っています。これからも手紙等による情報発信で保護者へのSNSルールへの理解を深めてもらい、家庭でもさらにしっかりと管理・指導をしてほしいと思います。
		豊かな心を育む教育活動	特別の教科 道徳の授業を要としたところの教育の充実	・教科書によって計画的に行う「考え、議論する」特別の教科 道徳の授業の充実 ・道徳授業地区公開講座の活性化 ・校内研究テーマ：深く考える生徒の育成～考え議論する「特別の教科 道徳」の授業を通して～	A	A	・外部から講師を招聘した研究授業を年間3回、ミニ研修会を年間5回実施し、授業力の向上に努めている。 ・引き続き学年の全教員がローテーションでの授業を行っている。特に、「考え、議論させる」ために、個人・集団・個で考える手法は定着している。 ・今年度から、全学年で道徳ポートフォリオを使用した。これによりワークシートへの記述内容や自己評価等、指導の幅が広がった。	・講師の指導及び助言を踏まえ、授業展開の発問をさらに工夫し、深い学びにつながるような発問を考える。 ・評価の内容は、授業の様子や記述内容を多くの教員が見取る。生徒がさらに前向きになり、励まされる評価を目指す。 ・保護者や地域の方にも、「特別の教科 道徳」について、理解を深められるように学校からの発信を行う。 ・令和3年度東京都道徳教育モデル推進校指定を目指す。	・規範意識の醸成のため、ルールやマナー、挨拶励行等「人との関わり」を意識させてほしい。 ・生徒が自分の心と真摯に向き合い、考え、議論していける場となればよいと思います。
		学校行事への主体的な取り組み	様々な、生徒の主体的な活動実施	・主体的な生徒会活動の継続（あいさつ運動、いいことしようDAY、新入生説明会、生徒総会、部活動対抗駅伝等） ・スクールパディ活動の活性化 ・SNS三中ルールの継続と改訂、周知の工夫	A	A	・学校再開後、毎月1回、生徒会を中心にボランティア活動（いいことしようDAY）を実施。スクール・パディは定期的に集まり、いじめ防止策の検討、パディ新聞の発行（毎月）等、いじめ防止に取り組んでいる。 ・SNS三中ルールを定着させるため、生活委員を中心に啓発活動を実施中。8月のアンケートでは、携帯所持率は89.5%（前回比較+12.5ポイント）、所持者のフィルタリング率が71.6%（前回比較+3.9ポイント）、家庭ルールは59.9%（前回比較+12ポイント）という結果。	・パディ新聞の内容の充実や、パディの対応や声かけの強化。 ・SNS三中ルールの周知・徹底。保護者への情報発信。	・いじめや不登校の問題はとても難しい対応です。当事者が孤独にならないようケアをしてください。 ・未成年の子供に持たせる以上、親の責任でルールを決める必要があると思います。 ・スクール・パディの活動は、全校生徒が同じ目線で取り組めるとなると良いです。 ・SNS三中ルールは、周知から徹底への第2ステージの時期だと思っています。
心身を鍛える人	自らを磨く生徒	キャリア教育の充実	・進路指導の充実 ・模擬面接実施（立川青年会議所等、地域人材活用） ・職業講話（ハローワークとの連携）	B	B	・コロナ禍のため、模擬面接及び職業講話は中止。その代わりに、面接ガイドを活用し、面接の心構え、態度等を深く学んだ。 ・学ぶ意義や進路の必要性を「進路だより」を通して伝え、意識を高めることができた。 ・管理職との面接練習を、全生徒対象に実施した。	・新型コロナウィルスの影響で、外部人材を活用することができなかった。来年度は、社会情勢にもよるが、感染防止対策を十分に行い実施したい。 ・試験に面接がないに関わらず、志望動機や自己PR、作文や小論文を全員が真剣に考えられるようにする。	・コロナ禍で生じる不安や迷い等が多くなることを踏まえ、より一層丁寧な生徒と向き合い、サポートすること、生徒も心強く自固からの道を進めるとしています。	
		豊かな人間性を育む活動	地域や外部協力者と連携した教育活動	・ひまわりプロジェクト ・国際交流（1年）・セーフティ教室 ・租税教室（3年） ・SDGsの取組（全教科）	B	B	・コロナ禍のため、ひまわりプロジェクト、国際交流、租税教室は中止。次年度以降は社会情勢を判断しながら実施予定。 ・国立三中独自の「SDGs三中学習プログラム」を作成し、1、2年生対象に実施した。プログラムの一つとして、JICA青年海外協力隊派遣経験者（ケニア派遣）を講師として招聘し、生徒対象の講演会を実施した。また同講師を再度招聘して、SDGs学習発表会を3学期に実施する。	・生徒の発達段階や実態に応じて、取り組み方を変えながら指導する。 ・「活動あって学びなし」とならないようにするため、「ねらい」、「学習」、「振り返り」等、活動の意義をしっかりと理解させた上で指導を継続して行う。 ・今年度の修学旅行及び職場体験学習は中止となったが、次年度は社会情勢を踏まえて実施。スキー教室は時期を3月にずらし、1泊2日に短縮して実施予定。	・行事ができず子供たちの思い出が少ないのは残念でした。その中でも2年生がTGGに行けたのは幸いでした。一方で、行事等が中止になることによる心のダメージも心配です。 ・各行事が延期となり、中止となりました。残念ではありましたが、学校では子供たちのことを考えながら常に検討を行ってくださったことをありがたく思っています。
		体験的な学習の充実	体験的な学習の充実	・修学旅行（3年） ・職場体験学習 ・校外学習（2年） ・スキー教室（1年）	B	B	・コロナ禍のため、2年生の校外学習のみを実施。 ・体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」を訪問し、行事のねらいを意識しながら、学習に取り組むことができた。事前学習や事後学習の内容も、確保できる時間の中で充実させることができた。	・次年度も継続・発展させるとともに、新しい種目にも取り組む予定。 ・研究成果を、東京都教育委員会「アクティブプラン To 2020」に発表する。	・オリンピック・パラリンピックについて理解を深めることは意義あることなので、今後も継続して学んでほしい。
		2020東京オリンピック・パラリンピックの成功と、スポーツへの関心を高める	オリンピック・パラリンピック教育の実施	・オリンピック、パラリンピックによる講演会の実施（1回） ・「様々な国を調べてみよう」等、調べ学習の実施	B	B	・コロナ禍のため、オリンピック・パラリンピックを招聘しての講演会は中止。 ・ピクトグラムについて身近に感じられるよう、「オリンピック・パラリンピック学習読本（P68）」を活用した課題を夏休みの宿題として取り組ませた。	・今年度も継続・発展させるとともに、新しい種目にも取り組む予定。 ・研究成果を、東京都教育委員会「アクティブプラン To 2020」に発表する。	・東京女子体育大学とは継続して連携してほしい。
都委託研究「スーパーアクティブスクール（体力向上）」の成果を踏まえた取組	都委託研究「スーパーアクティブスクール（体力向上）」の成果を踏まえた取組	・投力の強化 ・地域人材の活用 ・運動の機会の増加 ・運動嫌いの生徒の減少	A	A	東京女子体育大学ソフトボール部から学んだ投力動作に関する専門的な指導（手の使い方、助走、投げる角度等）を、投力が必要な種目において継続して指導している。	・東京女子体育大学とは継続して連携してほしい。	・体力向上は、学校と家庭の両輪で取り組めると良いです。		

達成状況の指標 A: 100%～80% B 80%～50% C 50%～0%